

設立20周年記念誌



社団法人 町田市シルバー人材センター

2000年を迎え

多くの先輩たちが築いた

わたしたらのシルバー人材センターは

設立20周年

自主・自立・共働・共助を

モットーに互いに手を取り合って

21世紀の更なる飛躍を目指します



社団法人 町田市シルバー人材センター

目次

-
- 銀齢 表紙題字.....名誉会長
町田市長.....寺田 和雄
 - わくわくプラザ・町田市シルバー人材センター..... 1
 - 目次..... 2
 - あいさつ・祝辞..... 3
 - ・町田市シルバー人材センター会長 林 清美
 - ・町田市シルバー人材センター名誉会長
町田市市長 寺田 和雄
 - ・町田市議会議長 中里 猪一
 - ・元 町田市市長 大下 勝正
 - ・全国シルバー人材センター協会会長 関 英夫
 - ・(財)東京都高齢者事業振興財団会長 大関東支夫
 - 20周年記念行事..... 6
 - 20年のあゆみ..... 13
 - 夢と希望..... 31
 - 20年間の実績..... 34
 - 組 織..... 41
 - 役員の変遷..... 42
 - 現役員・地域班長..... 44
 - 事務局職員・実行委員 あとがき..... 48



社団法人
町田市シルバー人材センター
会 長

林 清美

シルバー型邯鄲の夢

会場はギッシリ満員だった。彼女は、静かなゆっくりとした語調で話した。「私達が受注先で介助や清掃に精を出しながら、家人に何かと世間話をして心の通い合いに努め、家族の方々から深く感謝され、私達も働く喜びに満足して日々の生活に充実感を得ている。

しかし一面、机上で人情を論じ人情のため献身するのはたやすいが、生身の一人一人の人情に答え、人命のかけがえのない重要性を意識して、世情の実相に深く思いを致し、現世の無情に無限の忍耐をもって臨み、一介の人間として如何に克服して幸福を具体化することの難しさを知り、自己の無力を自覚した」と明言した。

次の説明者は公園の管理や整備に汗を流し、またパソコンの利用など事務系の仕事もした。決して十分でなかったが、仕事を互いに分かち合い譲り合って働いた。働くことで誰かに喜んでもらい、自分も満足を抱いて、幸せであると結んだ。

まとめにたった彼は、各自が自己の良心と能力を発揮し、自主性と自律性を相互に尊重して行動するのがこのシルバーの活動の証である。会員の理性、強靱な意志そして善意を信じて、小さな事実の積み重ねをし、小さな創造、小さな愛情の発揮の積み重ねが、少子・高齢社会の流れを、徐々に変えてゆくんだ。「シルバー万歳」と大声をあげたので夢から覚めた。

そこは20年の歳月を経た、冷厳な現実には彼は身を締め締めた。



名誉会長
町田市 長

寺田 和雄

祝 辞

町田市シルバー人材センターの設立20周年を心からお慶び申し上げます。

振り返ってみますと、1980年に「町田市高齢者事業団」の名称で設立以来、20年の長きにわたって、地域社会のなかで高齢者の生きがいづくりのため、会員に仕事を提供されてきました。これまで、堅実にその歴史を重ねてこられたことは、会員の皆様方の誠実で丁寧な働き方と親切で確実な仕事ぶりが、高く評価されてきたことは他なりません。

また、仕事の内容は、幅広く、受注にあたっての調整や業務の新規開拓など、事務的な処理と事業の拡大を着実かつ的確にこなしてきた事務局の職員の方々のご苦勞もなみなみならぬものがあつたかと思ひます。会員の方々をはじめとした、シルバー人材センターの皆様方のそうした努力に対しまして、改めて敬意を表したいと思います。

さて、本年4月から介護保険制度が発足し、町田市では、こうした状況に対応すべく『誰もが安心して老後を過ごせるまち』の実現に向けて、具体的に福祉施設の整備とマンパワーの充実強化に取り組んでいるところです。

今後は、介護保険の対象にならないための対応、いわゆる介護予防サービスのためにも、施設整備と施策の充実に力を入れてまいります。

なお、最後になりましたが、21世紀を展望する中で、シルバー人材センターが高齢者の方々の社会参加をより一層進め、地域社会の期待に応えつつ、ますます発展されますよう祈念してやみません。



町田市市議会
議長

中里 猪一

祝 辞

社団法人町田市シルバー人材センターの設立20周年を心からお祝い申し上げます。

昭和55年の設立以来、着実な成長を続けられ、平成11年度実績では会員数2,700人、契約金額9億800万円と、東京都のシルバー人材センターの中でも有数の規模に発展されたことは、ひとえに会員の皆様をはじめ関係者各位のご努力の賜物と深く敬意を表する次第です。

町田市においては、現在65歳以上の高齢者は、50,600人ですが、2013年には市民の4人に1人が65歳以上という超高齢社会を迎えると予測されており、健康で働く意欲ある高齢者の方々は今後ますます増えてまいります。このような中、一人でも多くの高齢者の方に、その知識・経験を生かした就業の機会の提供に努めると共に、活力ある地域社会づくりに貢献することは、きわめて意義のあることと存じます。

私ども市議会におきましても、高齢者の皆様に健康増進のための諸施設や就労生きがい対策の向上等、微力ではございますが、努力をしてまいります所存でございます。

最後に、会員の皆様をはじめ関係各位のご健勝と町田市シルバー人材センターのますますのご発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



元 町田市長

大下 勝正

設立20周年を祝して

はや20周年を迎えるとお聞きして、感慨ひとしおです。これまでの役員ならびに会員の皆様のなみなみならぬご努力に、心から敬意を表します。

この際、町田市の高齢者事業団がどのような経緯で生まれたかと、よく聞かれますので、簡単にご説明しておきたいと思えます。

私が公職についた昭和45年(1970年)頃は、それまで続けられてきた失業対策事業が整理、縮小され、近く廃止する方針が国から示されていました。

すでに失業対策事業に従事する人員も少なくなっていて、その人たちも高齢化しておりました。行く末を心配されている方々とよく話し合ってみますと、「戸外での長時間労働は、高齢化とともに、かなりきつくなってきた。しかし健康であるうちは社会のお役に立つ。生きがいのある仕事をつづきたい。」と異口同音にいわれました。

そこで早速、昭和47年度予算に、失業対策費とは別に、老人福祉費のなかに「高齢者の生きがいある生活」を目的にした、高齢者就労対策費をはじめて計上いたしました。

やがて、この事業目的が理解されるにつれて、年々少しずつ増大していきました。

この「高齢者の生きがい」を目的とした就労事業について、当時東京都の労働担当者が熱心に、私のところに聞きに来られました。その後、都が中心になって、すばらしい高齢者事業団の構想が打ち出されました。町田市もそれに学んで、今日の高齢者事業団を発足させることになったわけです。

終りに、ますますのご発展をお祈り申し上げます。



社団法人
全国シルバー人材センター事業協会
会長
関 英夫

設立20周年を祝して

社団法人町田市シルバー人材センターが設立20周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

貴センターにおかれましては、昭和55年12月に創立されて以来、地域に根ざした高齢者の自主的組織として着実な発展を遂げられ、地域社会において大きな役割を果たしてこられました。

この間、会員数は2700人を超え、また契約金額は9億円になるなど、都内においても飛躍的な実績を上げられているところです。

これも偏に会長様はじめ、会員並びに役員皆様方のたゆまぬ努力の結果であり、深甚なる敬意を表するものであります。また、これらの実績を支えるうえで、町田市ご当局をはじめとする行政機関はもとより、地域の関係各位から寄せられましたご支援に対して、厚く感謝申し上げます。

さて、シルバー人材センター事業は21世紀初頭の超高齢社会の到来によってその社会的役割が益々重要なものになってきております。一方、近年の厳しい経済情勢の中にあって高齢者を取り巻く環境の変化等により就業意識に多様化が見られ、短時間就業の希望割合が増加しています。

こうした状況に鑑み、この度「高齢者等の雇用の安定等に関する法律」の一部改正が行われ、10月1日から施行されることとなります。従来の臨時的かつ短期的な就業の枠を超えるような、例えば、仕事の性格上ある程度継続的な就業にも範囲を拡げて高齢者の就業機会を拡大していくこととなります。

このような観点からもシルバー人材センターは、今後、より地域社会の多様なニーズを踏まえた事業展開が期待されてまいります。

貴センターには、20周年を新たな契機として、高齢者の生きがいの充実と地域社会の発展を支えるうえで、更なる前進をを図られることを希望いたします。

終わりに、貴センターの益々のご発展と皆様方のご健勝を祈念し、お祝いの言葉といたします。



財団法人
東京都高齢者事業振興財団
会長
大関東支夫

設立20周年を祝して

社団法人町田市シルバー人材センター設立20周年を心よりお祝い申し上げます。

貴センターは、昭和55年に会員数894人で誕生して以来、着実に発展を遂げられ、多大の成果を挙げられております。20年後の今日、会員数は2,691人、契約金額も9億円を超えております。これも会員の皆様をはじめ役員の方々の事業運営に対する日頃のご尽力の賜ものと、深く敬意を表す次第です。

この間、会員増強や会員の就業機会の確保、福祉・家事援助サービス事業等に積極的に取り組まれるなど、「自主・自立」、「共働・共助」の事業理念に基づき、地域に密着した事業活動を展開されております。21世紀の超高齢社会を目前にして、今後も引き続き、高齢者が地域社会の担い手として活躍するための場を築きあげていただきたいと存じます。

私ども振興財団では、シルバー人材センター連合として社会環境の変化に対応して、福祉・家事援助サービス、リサイクル、事務系分野など、引き続き事業の拡充・発展のために積極的に取り組んでいく所存であります。

最後に、会員の皆様はじめ関係各位の益々のご健勝と、社団法人町田市シルバー人材センターの一層の発展を心より祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

20周年記念行事



7月22日(土)町田市民ホールに於て、来賓14氏のご臨席を得て記念式典が挙行されました。

武田太郎常務理事の司会により、開式に先立ち、踊り同好会による“祝舞”が演じられたあと式典に入りました。

開式のことばとして、谷節能顧問が「70才の時に設立運営に携わり、20年を経た本日皆様と一堂に会する幸せを感じます。いつまでも元気でやりましょう」と活気溢れるお声で呼びかけられました。

次いで来賓紹介のあと、林清美会長が設立から今日までの推移と、現在2,800人を超える会員を擁し年間契約高9億円超の業績を挙げるに至ったことに対し行政各位のご支援と会員各位の誠実な活動への謝意を表し、「変革期



林 清美 会長のあいさつ

に対応すべく三つの目標（創設の理念・情報化時代の組織運営・構成員の意識改革）を掲げ、基盤と自律性の更なる強化に努力する覚悟」を披瀝いたしました。

次いで、名誉会長の寺田和雄町田市長はじめ来賓6氏から、高齢化社会に於けるセンターの役割に対する期待を込めたご祝辞をいただきました。

このあと事務局職員7名の永年勤続表彰を行い、江洲秀子副会長の閉式のことばを以て滞りなく式典を終了いたしました。



名誉会長 寺田和雄 町田市長の祝辞



大下勝正前市長の祝辞

20周年記念式典 来賓出席者ご芳名

名誉会長 町田市市長	寺田 和雄 様	東京都議会議員	谷口 卓三 様
町田市議会議長	中里 猪一 様	前町田市市長	大下 勝正 様
(財)東京都高齢者事業振興財団 専務理事	宮城 哲夫 様	町田市健康福祉部 保険介護推進担当部長	岡部 優 様
衆議院議員	伊藤 公介 様	社会福祉協議会会長代理	鈴木喜八郎 様
衆議院議員	石毛えい子 様	民生委員代表総務	佐々木のり 様
東京都議会議長	渋谷 守生 様	(財)東京都高齢者事業振興財団 理事長	武田 久雄 様
東京都議会議員	河合秀二郎 様	高齢者就業相談所 所長	四条藤右え門 様



祝 舞



職員表彰

20周年記念行事

かくし芸大会

和やかさと楽しい雰囲気あふれる「かくし芸大会」は、平成12年7月22日（土）に、市民ホールで、出演者28名の熱演で、盛大に催されました。

種目は、伝統的な芸能をはじめとして、モダンなミュージックダンスに、楽器の演奏そして芝居等、多種多芸でした。

出演会員の演技は、見事なものばかりで、その演技は年齢を感じさせないもの、素人ばなれで、一流の芸能人のステージでも見ているようなものなど、素晴らしい芸達者に、観客が驚きの目を輝かせ、しばし感動の拍手が



▲人形とは思えない!!

止まない場面があったりして大好評でした。

数々の名演技に見とれた観客席には、最後まで満足と楽しさいっぱい余韻が漂っていました。



▲みんなシルバーです!!



▶さすが貫ろくの音色!!



▲梅鶯になります!!

◎ プログラム ◎

- | | |
|----------------------------------|-------------------------------|
| 1 謡曲独吟 (羽衣) 中峯 良藏 | 8 ハワイアン・フラダンス (南国の夜) 庄司 文 他3名 |
| 2 ハーモニカ演奏 (メドレー影を慕いて他3曲) 上滝 尚久 | 9 ハーモニカ演奏 (メドレー赤い翼他3曲) 清水 毎沙美 |
| 3 詩 吟 (天意を織る 西郷南州作) 高牟礼 保 | 10 演劇ものまね (赤城の子守歌 春日井梅鶯) |
| 4 菅原美智也ミュージックショー 菅原 道也 | (佐渡情話 寿々木米若) |
| 5 ピアノ演奏 (荒城の月 花かげ) 河原 和夫 | (吸入観音経 三門 博) |
| 6 踊 り (メドレーだんご3兄弟他) 草野静子 他美女連10名 | 木谷 勇 芸名 木曾乃家月丸 |
| 7 長 唄 (都風流) 山崎 正 | 11 芝 居 (ベンチャーズ5人娘) 前 孝子 他4名 |

20周年記念旅行

ミステリーお座敷列車 1泊2日の旅



▲盛り上がるお座敷列車の中

▼勇壮な「上諏訪・不動太鼓」で開宴



平成12年7月23日(日)、11時30分、記念旅行参加者総勢127名(男性63名、女性64名)は、元気にわくわくプラザ前を出発。JR町田駅発12時24分のお座敷列車(6編成)で、一路、目的地の上諏訪温泉郷へ。往路の車中では、お楽しみの抽選会とカラオケ大会。その夜は諏訪湖ホテルの大広間で、『上諏訪不動太鼓』の上演で開宴。続いて抽選会の特等6名の発表と景品授与。その後は次々と飛び出る歌と踊りに、宴席からは拍手喝采、大いに盛り上がりました。

翌日は、『諏訪大社下社めぐりコース』を初め幾つかのコースの中から任意に選び、お仲間同士で各所を散策。帰途の車中では、また和気あいあいとお小宴を繰り広げながら、親睦を更に深め、17時56分、町田帰着。記念旅行は終始賑やかにさまざまな思い出を残し、無事終了しました。



▲抽選会で特等になられた幸運の皆さん



▲諏訪大社下社の御柱の前で記念写真

20周年記念行事

カラオケ大会



去る7月31日、シルバー人材センター20周年記念「カラオケ大会」が開催されました。出席予定者は11名でしたが、飛び入り歓迎ということで総勢22名の出演となりました。会場にはコーヒーショップも開設され、和やかなうちにも熱気が漂っていました。

当日は猛暑で、会員の出足が悪いのではと心配されましたが、6時にはすでに79名の来場者がありました。

出演者は熱唱され、それぞれ自慢の声を披露してくれましたが、そのパワーに圧倒されました。そして出演者と観客が一体となり、和気あいあいのうちに無事終了しました。



▲ お見事でした



▲ 聞きほれる…



▲ さあ、自慢の声を!!



▲ 衣装もカワイイ!!

作品展

8月2日午後1時、会長・副会長のテープカットにより盛大な作品展が開催されました。5日間の入場者は約517名、出品者数71名、作品数112点の多くを数え、どの作品を見ても、それぞれに年輪を感じさせる立派な出来ばえで、これも会員の方々の常に精進なさっている様子が一つ一つの作品にうかがわれました。

可愛い作品あり、アイデア作品、技術を要する作品等があり、楽しい作品展になりました。



▲ 会長・副会長のテープカットで作品展オープン



◀ 各種書画の展示ブース風景



手工芸品、写真の展示ブース風景 ▶



◀ 絵画展示ブース風景

20周年記念行事

奉仕活動

当シルバー人材センターが設立され、会員の皆さんがセンターの理念をよく理解し、自主・自立・共働・共助の精神で、会員数・事業実績を別項に記載しているとおり着実にその成果を挙げることができました。

これは偏に会員諸氏の努力のみでなく、行政および地域住民による支援ならびに協力なくしては成し得ない業績です。

この度設立20周年を迎え、記念事業の一環として、行政・市民に対し謝意を含めて、小意ですが次に掲げる奉仕活動を平成12年8月以

降に実施することが執行機関で決定しました。市内に居住する高齢者の独身または虚弱者に対し奉仕するものであります。

①除草奉仕

一般市民に広報で募集し、応募された方44世帯に対し奉仕した。

②刃物研ぎ奉仕

従来自治会の会館などを借りて作業していた謝礼26ヶ所で奉仕

③障子・襖の張替え奉仕

在宅サービスで推薦選定された方に対し五百枚奉仕した。

以上写真のとおり



「庭の除草」

- ・対象 市内の一般家庭
(敷地面積が150平方メートル以下の家)
- ・実施数 50所帯(抽選)

「刃物研ぎ」

- ・対象 市内自治会
- ・実施数 26集会場



「ふすま張り」

- ・対象 市内高齢者家庭
- ・実施数 約110所帯

20年のあゆみ



20周年を迎えて
太田 清一

シルバー人材センター事業が、高齢者就業に大きく貢献していることは周知のとおりであります。この事業が、かくも輝かしい成果を収められることの出来たのは国の認知されることにより、法制化されたことによるもので、その効果については、計り知れないものがあります。

私たち高齢者に生きがいと働くことの喜びを与えてくれたシルバー人材センターに対し深く感謝するとともに、法制化に対し、寝食を忘れ努力された多くの関係者に対し、改めて敬意を表するものであります。

関係者のお一人であられた今は亡き全シ協専務理事横田松寿氏の記録によるとこの事業の法制化実現のため、前の全シ協会長氏原氏、前労働省事務次官であられた関氏等と共に第1目標に掲げ、運動されたという。その甲斐

あって法制化は達成され、念願のシルバー人材センターの法的位置付けが明確になりました。このことを喜ばれ、この為に努力された関係者と共に所沢市外にある亡き大河内一男前会長の墓前に官報を供え、多くの関係者を代表し報告されたといえます。

シルバー人材センターの前身である高齢者事業団が、東京都全域の一隅に誕生したのは、昭和50年2月、今から25年前であります。大河内一男先生始め多くの学者、行政、労使団体をはじめ、各界代表を加え、研究を重ね、地域の事業として始められました。当時この事業は外国は勿論のこと、日本にもなかった高齢者が組織する新しい就業システムとしての組織で、シルバー人材センターとして、昭和55年、国庫補助対象事業となりました。また、我が町田市シルバー人材センターは「シルバー人材センター町田市高齢者事業団」としてこの年の3月に会員856名で設立されました。その後、行政並びに地域住民の支援と会員の努力により輝かしい発展を遂げ、会員数3千人にも達しようとしています。20周年を迎えるにあたり、更なる発展と、会員の皆様のご多幸を祈念し、お祝いの辞といたします。



シルバー会員としての感想
宮下 恒一

町田市シルバー人材センターの20周年記念に当り、入会以来ご指導ご鞭撻下された、会長、副会長、常務はじめ、設立当初よりご尽力なされた諸先輩に対し、心から敬意を表し感謝申し上げます。

私が入会したのは昭和61年4月で、センターもまだ小学生の域で幹部以外の会員には、センターの理念が理解できず、その徹底には五里霧中の状態でした。

今年はセンターも20才の成人となり、会員も3千人に迫り、事業実績も都下58センター中のトップクラスの優等生です。特に家事援助事業の伸びは目覚ましく、会員数も300人を超え、その仕事振りは全国的に高く評価され、各地のセンターから視察団が相次いで来訪さ

れ、関係者は嬉しい悲鳴を上げております。

私は入会以来種々の仕事をしましたが一番印象に残っているのは、市広報の郵送作業です。入会した年の6月から就業しましたが、指定された部数を1日で完了せねばならず、総員約30名を1回4名～6名のローテーションで、9時から17時まで午前、午後各15分と昼休みの休憩以外は話もできないほどで、特に運送のトラックが遅れると、さあ大変、休憩は勿論、昼食時もろくに休めず高齢者には仲々厳しい仕事でしたが、完了したときの喜びもまた一入であり本当の生甲斐を覚えしました。平成7年3月でこの仕事が無くなり一緒に就業した人達と会えなくなったことは大変寂しく残念に思います。

超高齢社会を目前にして今年4月から地方分権の幕開けとなりました。これからは地域の取り組み次第で住民の幸せにも差がでる時代です。私達シルバー人材センターに於いても益々地域社会と手を携えて地域社会の発展に寄与することがシルバー人材センターの発展になるものと確信いたします。

20年のあゆみ



20周年
おめでとうございます
前事務局長
畠山 光則

私が市からの派遣職員としてシルバー人材センターの事務局長に着任したのは1995年(平成7年)10月でした。それから2年10ヶ月間の短い期間でしたが、いろいろ勉強させていただくとともに貴重な体験をしました。

高齢者福祉問題というとまず虚弱・寝たきり及び痴呆高齢者の問題がクローズアップされ、そのための制度、施策が次から次へと打ち出されています。公的介護保険制度はその決定打と言えます。私も15年後に高齢者の仲間入りします。どんな生活をしているか、元気でいたいことはいつわざる本音です。

シルバー人材センターに行く前は、市の高齢者在宅サービス課で支援や介護の必要な在宅高齢者の仕事をしていました。毎日、窓口に家族の方から深刻な問題がもちこまれ、電話もひっきりなしにかかっていました。それが、シルバー人材センターに来てからは、「高齢者問題」に対する考え方は一変しました。働いている元気な高齢者が多くいることを身をもって知ったからです。東京郡民の高齢者の、いわゆる元気高齢者は10人のうち8人もおり、介護の予約的施策が何よりも必要とされています。

このことを考えた場合、シルバー人材センターは他に類をみない良いシステムではないかと確信できます。「仕事」「社会参加」「趣味」が三味一体となった日々の生活が人生にハリを与えらると思うからです。

あらためて20周年おめでとうございます。



20周年の思い出
岡野 勲

思い出しますと60歳で公務員を停年となり失業保険を貰い何か働くところはないかと思いつきながら暮らしておりました折、当時高齢者事業団と称していた団体があるのを知り、入会申し込みに行きますと「ここは60歳以上の方が入会するところですが…」と受付の方が申されました。「ですから来たのです」と漫才のような会話で申込書を書いたことでした。適当な仕事がなく申込のみで帰りました。

約1週間位経って昭和61年3月12日市立金井小学校の戸締業務の仕事がありますが…との連絡がありました。家から徒歩で約10分ですので早速お受けした次第でした。仲々思うような仕事のない時にと幸運に驚くと同時に関係者の方に感謝したことでした。種々仕事の見習も終え、単独で勤務することに或る教

頭先生と校内を見廻って居る時、一人の生徒がこの人は何の先生ですかと先生に聞きました。「この方は夜の校長先生のような仕事をする方です」と答えられました。なかなか良い答えだと感心したことでした。この様ないろいろな思い出があります。

そして62年4月に安全管理推進員となり、平成元年には理事に推挙されました。亦安全管理委員会の委員になり、安全管理が私の任務の如く思われました。これにも種々思い出がありますが委員長としての2期目に死亡事故があったことです。私にとって終生忘れることが出来ないと思います。安全管理・事故防止をモットーとして来ました理事としての私には最大の打撃でありました。学校勤務10年、理事も5期10年勤めさせていただき、平成11年3月理事を退任、現在に至っております。幸いにして体は充分とは言えないものの元気で暮らしております。趣味として詩吟を習い、玉川学園西寿会(老人会)の世話人(副会長)として亦町内会幹事として微力を盡すこととして居ます。

菜園の側に薔薇あり真紅なり

会員のつどい



▲ 同好会のアトラクション

毎月のはじめにセンターの3階に会員が自由に集まり、コーヒーや抹茶を飲みながら、同好会の出し物を楽しみ、有志が出品した写真や油絵を鑑賞したり、フリーマーケットで気に入ったものを安く買うなど、会員が楽しむ一日のことです。

「会員のつどい」は、会員の中から有志を募り、「つどい実行委員」として自主運営をしているものです。肩の凝らない気楽な集まりです。

会員の皆さんの
親睦を図るため
平成10年5月から
スタートしてる



▲ 実行委員の皆さん



◀ オカリナ同好会 出演

20年のあゆみ

定期総会

平成11年9月28日（於：町田市民ホール）



室内レクリエーション

平成11年10月16日

（盛り上がる応援合戦）



大会実行委員長より優勝のトロフィーを授与される赤組応援団長

健康ハイキング

平成11年10月30日

秋晴れの「こどもの国」で
森林浴



夢舞 生ッスイ祭

平成12年5月28日



(カリヨン広場で踊る)

コンクール(版画回廊の大舞台)本番前に勢ぞろいした「夢舞シルバー100」の皆さん

仕事別グループ活動

■ 駐車場管理



■ 駐輪場管理



■ 植木

一般には、多くの人と付き合い、触れ合うことで、学び、豊かな気分になり、理解を深めることができると、言われもするが、気のおけぬ仲間と、仕事をするときは、また、楽しいものである。

常に前向きで、行動の端々に相手の立場を思いやる気持ちを感じさせる人は、人生を無駄にすることなく、過ごして来たと思え、疲れを感じさせることがない。私達、植木班グループは、そんな人達の集まりである。



■ 襖張り替え



■ 営繕



■ 清掃



■ 除草



その他、会員の携わっている仕事は、

- 家庭教師 ● カルチャー教室講師 ● 翻訳 ● レタリング
- 調理関係 ● クロス張り替え ● 一般事務 ● 和・洋裁
- 毛筆筆耕 ● 配布物 ● 荷物運搬 ● 屋内外清掃
- 家事援助 ● 紙すき ● 学校管理 ● 受付事務 ● 塗装
- 刃物とぎ ● パソコン指導等多種に渡っている

20年のあゆみ

サークル活動

会員が自主的に運営し、世話人を中心として親睦融和や連帯意識の高揚、更には会員相互の情報交換等に多大な成果をあげている「サークル活動」は、平成5年4月に発足し、現在では以下の各サークルが会員それぞれの趣味や生きがいを求めて活発に活動しております。



◀ 油絵同好会

静物写生中の会員スナップ

カメラ同好会 ▶

町田市民ホール3階
展示ホールにて



◀ 踊り同好会

会員の集いで踊りの成果を
実演ご披露

シルバー連まちだ ▶

賑やかにお囃子実演中



◀ ハイキング同好会

谷川岳連峰へのハイキングメンバー



MSCオカリナ同好会 ▶

風の音、土の響きを伝えるオカリナの同好会が発足して3年半、最初の音を出す苦勞を忘れて自然の音を楽しんでいる。



◀ 演劇同好会

「わくわく劇団」の皆さん
1998.9 定期総会のアトラクションで
「サロメ」を公演した。



20年のあゆみ



◀ ホビー工作同好会

ホビー工作中的のスナップ

囲碁同好会 ▶

白熱の対局中？



◀ 俳句同好会

定例会風景

謡曲同好会 ▶

定例会風景





◀ 緑友会

箱根湯元でのスナップ

▶ マージャン同好会

雀卓を囲んで熱闘中のスナップ



◀ パソコンサークル

勉強会風景

▶ 手しごとと趣味の会

手しごとと趣味の打ち合わせスナップ



20年のあゆみ

技能研修

会員のための技能研修講習
(雇用を前提とした技能講習)

植木班研修



▲ 研修会



草刈り実習 ▲



▶ 実習

緑化保全

▼ 桜美林学園での講習会



パソコン



毛筆筆耕



独 自 事 業

牛乳パック再利用（紙すき班） この事業は平成元年6月開業



▶ 紙すき作業中

刃物研ぎ



刃物研ぎ事業を始めて丸3年になりますが、シルバー人材センターの中でもまだ新しい仕事です。一つの事業を新しく立ち上げることは最初考えたほど簡単ではありませんでした。

今ではどんな刃物でも切れが良いと評判をいただいています。当初は技術の向上とシルバー人材センターの刃物研ぎは誰が研いでも均一と評価されることで、そのための基準

を示すことが必要でした。専門書で研究し、みんなで研修もしました。今では講習会で講師を務めるくらいに刃物についての知識も広がり、技術も格段に上達したと思っています。

既存の研ぎ屋さんがいなくて困っておられる地区に、もっと出かけて地域みなさんに喜んでいただけるようにしたいと考えています。

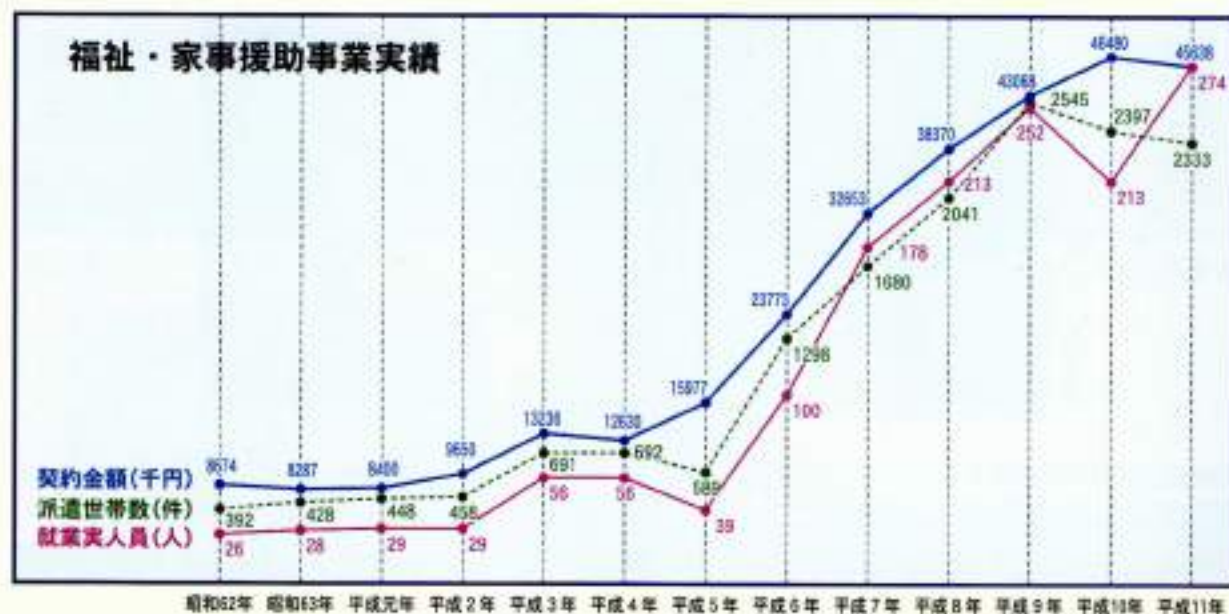
20年のあゆみ

受託事業

家事援助事業

当センターの家事援助事業の発展は、地域に密着した「自立支援型家事援助サービス」を提供し、家事援助周辺事業と併せ、企画力

・能力とその技法をもって実現してゆく一丸の熱意が「20年」の実績を証明している。



福祉・家事援助事業の開始と経緯、概要

当センターは、東京都を実施主体とし町田市の協力を得て昭和56年10月1日から委託を受け行われた。この事業の着手にあたり、役員相互や市の担当者との間で、その背景や世論を検討し共通な認識に立つよう努めた。昭和58年に町田市に移管され「町田市心身障害者(児)老人家庭奉仕派遣事業」として引き続きこの事業を契約し、介護保険制度が開始された平成12年度は、生活支援事業として今日までに至っている。一方一般家庭の家事援助サービスは、市の委託業務と同様に対応しているが、発注者は福祉制度の制約に該当しない家庭、幼児のいる若い世帯、単身世帯等多岐にわたる。

当初この事業の希望会員は18人、そのうち実際就業したのは10人、契約高も予算の36パーセントで予期したより少なかった。しかし、利用者の評価は非常に良く、会員の意欲を助成するのに役立った。

その後、他機関との役割分担・すみ分けに6～7年ついやしたがその時期を過ぎてからは、年々伸びを示し、平成6年度は顕著に急増した。これは、家事援助推進事業が開始されるにあたって現状分析し、新たな組織目標を掲げ具体的な取り組みを開始した。その他会員コーディネーターの導入と、男性会員が参加しやすい仕事の内容に調整した。また、会員研修の充実

を図り、仕事の標準化に努めた結果であると考えられる。平成11年度、東京都の3級ヘルパー養成講習の指定を受け50人が、平成12年度も50人が受講した。

※行政委託福祉・家事援助事業と周辺事業の沿革
デネー・サービス

平成5年8月に、鶴川老人福祉センターで開始
平成7年4月に、わくわくプラザで開始
平成9年4月に、小山センターで開始

※オムツの配達

平成10年に開始

施設送迎

平成6年4月に、ケアセンター清風園
翠の森

小山田
木曾森野
いづみの里
成瀬

(平成12年の現在では、13ヶ所の増で19ヶ所)

慈しみの心と豊かな感性で訪いできた多くの先輩会員のサービスを研究し、そこから新しい時代に合う知識や道理を見つけ出し地域が必要としている福祉・家事援助サービスを提供できるよう飽くことない努力が20周年を期に再び始まった。

葬祭事業

町田市民の福祉の増進をはかるため、安い価格で、おごそかな葬儀が出来る市民葬祭事業を全面委託し実施しています。



葬祭事業の推移

市役所が福祉の一環として葬祭事業を行って来ました。これをシルバー人材センターに一部委託されたのが昭和61年7月です。全員12名が3日交替の就業で祭壇の飾付片付又柩の組立等につき職員の指導のもとで約半年の間実習をしました。中でも数多い飾り物の名称と箱詰を覚えるのには苦勞しました。

その後3人の職員が受付として残り飾付は会員が受け持つ事となりました。

当時は飾付件数は月に20件前後でした。その頃会員の服装がまちまちで儀式に携わる者として統一して欲しいと要望しました。そして認められ儀式に相応しい服装になりました。

葬祭も受託以来は、次の通り市民より受注され、現在に至っています。シルバー葬祭に対する市民の期待と感謝の声が支えになって頑張って来ました。

件数も年々増加して月に約25件程になりました。

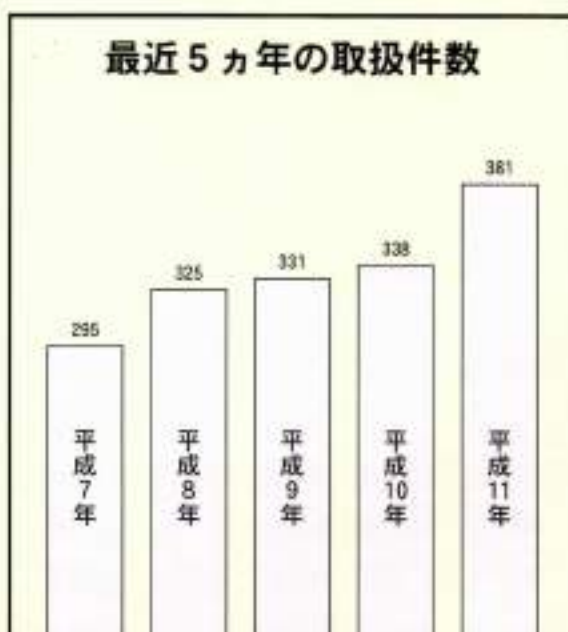
この頃市民の間から祭壇を飾るだけでなく司会進行も是非やって欲しいと言う要望が多数寄せられ平成3年に司会制度が発足して現在

に至って居ります。

平成8年4月には全面委託になり木曾の葬祭事業所を拠点として新たな体制で始めました。

近年葬祭に対する考えも多様化し形式的で派手な演出よりも質素でも心に残るひと時をと、自分らしい葬儀が多くなり密葬又は火葬のみを含めて飾付件数も月に平均して約33件前後を推移しています。

最近5カ年の取扱件数



20年のあゆみ

安全研修



7月14日、平成12年度安全就業推進大会が振興財団の主催で開催され、当センターの過去3年間の事業活動の状況、安全就業対策の取り組み状況、事故発生状況などから安全就業優良センターとして表彰されました。

安全巡回



シルバー人材センターの組織で安全就業管理は最も困難な問題の一つです。このシステムでは原則として安全就業は自己責任が基本です。安全管理委員でも基準に違反する以外は、やたらと注意出来ないのです。安全管理委員会は自己管理の自覚を促すのが、大切な任務です。自己管理の方法の一つに体力測定があります。現在の体力や運動能力を把握してそれに合わせた無理のない仕事を選ぶよう

指導することが大切です。

3千人の高齢者集団で、傷害事故ゼロは至難のことですが、自己管理が徹底すれば必ず事故減少につながるものと思います。

安全の基本理念は「人命尊重」です。21世紀に向かって、益々発展するためには現在ネットワークになっている、安全就業管理問題の解決が重要なポイントになると思います。

会員の拡大

長期目標を達成するため毎年推進しています。

当シルバー人材センターは、昭和55年度発足以来20年の歳月を経て、その間、たゆまぬ努力と多くの地域の方々の支援により、年々事業は発展し、会員数も2,900名を数えるようになりました。

シルバー人材センターでは、過去5回に亘って、会員増強のための調査を実施してまいりました。その結果シルバー人材センターの果す役割は大いに重要視されることがわかりました。

今後も男性会員は勿論のこと、女性会員の増強に力を注ぎ、多くの高齢者の方々の生きがいのためのシルバー人材センターであるよう、努力していきたいと思っています。

シルバーカレッジ市民講座

町田市よりの委託事業として、満60才以上の高齢者に生きがいづくり支援を目的とした一般市民対象のシルバーカレッジ市民講座が、今年も開講されます。

この教室は当センター会員の豊かな経験と豊富な技能を役立たせたいということで、高齢者の社会参加支援事業の一環として、平成6年より始まった教室です。

初年度は4教室でしたが、その後この市民講座に対する評価が高まり、年毎に教室数も増え、今年度は12教室が右のとおり開講されます。

各教室はいずれも初心者を対象としており、所定のコースを終了した後も、多くの受講生はこれを引き金にして、自主運営の同好会を作って継続しているのが現状です。

教室名	開講回数	受講者数 (1回当たり)
英会話 (中学生程度)	2	15
水墨画 (初心者)	1	15
書道 (初心者)	1	15
オカリナ (初心者)	1	15
パソコン (入門コース)	2	10
パソコン・ワープロ (初級コース)	2	10
水彩画 (初心者)	1	15
囲碁 (初心者)	1	20
絵手紙 (初心者)	1	15

20年のあゆみ

広報活動

銀齢だより



各地域班長が会員宅に配布しています。

広報まちだ



1999. 7. 21号
2000. 7. 21号

ちゃぶだい



毎月家事援助班により発行されています。

新聞記事



読賣新聞より



副会長
江渕 秀子

高齢社会を目前にし、家事援助事業はめざましく発展した。SP事業の一環として「ホームヘルパー3級養成講座」を初め種々の研修に多数の会員が参加し、意識の向上を示している。今年4月から介護保険制度が開始され、当SCの家事援助事業も大きく変わったが、会員の熱意には変りはない。男性会員の参加も30名を超え、事業内容はますます拡大充実して高齢社会に虹をかけたいものと、目標にむかい新たな意欲を燃やしている。



理事（総務部会長）
間島 一也

20周年から25周年に向けて、さらに飛躍をするには、センターに入会の時の説明、事業の理念を思い出し初心に帰る必要があります。自身の経済的メリットだけを求めてはローテーション就業は出来ません。仕事をみんなで分かち合い、センターの諸活動に積極的に参加してこそ明るい未来があります。健康や生きがいの為、会員が助け合い市民に応えるよう努力しましょう。夢は就業率90%、そしてITで海外団体との交流も期待。



事務局長
松田 良蔵

2005年、町田市の60歳以上の高齢者人口は推定92,500人になる。その約4%の3,700人が当センターの会員になると仮定したとき、ランチ構想が浮かんでくる。ランチは、会員数の増加対策と地域格差解消に有効な手段である。

地域の会員が地域で発生した仕事を、「共働・共助」の理念で遂行し、行政・地域・市場の隙間を埋め、ひいては地域の暮らしの質を高めるものと考え。



班長（葬祭班）
永野 貞次郎

本年度の基本計画にあるOA研修について、私なりの希望と夢を書いてみます。

今日、情報化時代と言われています。今後も変わらないでしょう。この流れに我々シルバー世代も対応して行きたいものです。その意味でもこの計画を大いに推進していただきたい。私も今パソコンを勉強中です。それで思うことは、近い将来ホームページを開設、いろいろな情報を収集、共有し、自己研修してシルバーの益々の発展に寄与したいものです。



班長（園芸管理）
小林 泰

会員の意識の高揚とさまざまな社会に奉仕する心が大切で、会員相互の交流と仕事の情報交換の場を如何に結びつけるかが肝要であります。

未就業会員への情報提供として求人情報の電話案内の設置、又お客様への対応のスピード化を計る為、職員、理事、班長、会員の連絡強化、働く仲間が各職場でセンター利用のメリットを口コミでPRする等、これからは更に一体となり事業推進を計ることが切望されます。



班長（経理事務）
手塚 知子

入会以来15年、ずっと一ヶ所で経理事務の仕事をして来て、友達も出来なかったのが『会員の集い』に参加するようになって、お仲間も沢山でき大変感謝しています。

これからは、後から入って来られる若い方々に頑張っていただき、私としては及ばずながら皆様に協力し手助けが出来たらと思っています。

更なる飛躍を目指すために、共に健康管理に心掛けましょう。



班長（受付管理）
大石 敬三

入会して10年が経過、以前は電気機器技術者として、製品開発と特許や実用新案の取得に係わって来ました。

当センターに入会して最初に勤めたのが地元の農協関係の仕事。肥料や農薬など多数の種類を覚えるのに大変苦労しましたが、先輩会員の親切的な指導や、温かい気持ちに励まされ乗り越えて来ました。

現在はセンターの受付管理をしておりますが、当センターの良さを継承し、発展させて行きたいと願っています。



班長（家事援助）
槌谷 和代

家事援助の仕事で虚弱者の方々と接し、心身ともに健康であることのしあわせを実感している。高齢者は、より長生きすることより、より健康であること。そのためには多くの仲間と出会い、励ましあって、よい仕事をし続けることだと思う。同じ仕事仲間だけに留まらず、広く接するには“明るい挨拶”を交わしたい。

シルバー仲間のバッジを付け、どこで出合っても朗らかに挨拶を交わせるようになったら、と思うと楽しくなる。



会員（植木班）
金子 守夫

「物から心の時代」と言われた時代があったが、シルバー人材センターのこれからは「心の通い合い」と「他人の力となれる」と言う意識の合意が大切なことである。高齢化と福祉の時代と言われる現在。営利を目的とする活動よりも、ボランティア的な仕事に対する評価が求められ、益々シルバー人材センターの果たす役割は、大きなものとなるであろう。従って、新しい要請に応え得る柔軟な思考と行動が必要と思う。



会員（表具班）
捧 政吉

設立20周年を迎えた町田シルバー人材センターの一員として、充実した日々を送ることが出来るのは、なんと素晴らしい事でしょう。表具技術を東京都訓練校で学び、平成4年3月に入会以来、健康で日々楽しく仕事を続けております。年月と共に心の余裕も生じて来た現在、各種同好会の友と交流を深め、また今春は3級ヘルパーの研修も終え、今後は更に優さを踏まえた介護を目指して行きたいと思っております。



会員（デイサービス班）
三原 寛治

設立20周年おめでとうございます。この基礎を築いて下さった先輩の皆様へ感謝いたします。これから更なる発展へ向けて、町田のシルバーならではのデイサービスメニューが欲しいですね。今までの手芸工作、俳句、民謡の実績をふまえて会員の皆様の協力を得ながら、書道・絵画・陶芸・詩吟・朗読・花作り等々趣味に遊ぶ成人講座とでも呼べるデイサービスに、ゆくゆくは発展させたいものです。利用者も私達も花を咲かせましょう。



会員（商品管理班）
置田 幸子

懇切丁寧で、温かな事務局のかたがたの対応に感動した3年前の入会時を思い出します。以来、当局への感謝の気持ちを胸に、細心の注意をはらい仕事に就くことを心がけています。協調性があり人間関係にゆとりがもてる、豊富な体験を仕事に活かしている、等のシルバーへの評価を耳にします。各自が仕事の質の向上を自覚し認識することが地域社会での評価につながり、ひいては就業先開発の手段となるのではないかと考えます。

20年間の実績

■ 設立総会



■ 5周年



■ 10周年



■ 新事務所開設



■ 年表

年月日	行事内容
昭和54年 3・6	町田市高齢者事業団設立総会
昭和55年 5・1 10・25 12・1	事務所を原町田3-3より森野1丁目1-15に移転 市民ホールにて社団法人設立総会 東京都知事より社団法人の許可を受く
昭和56年 1・16 4・1 10・1	会誌名「銀鈴だより」と決定、第1号発行 シルバー人材センター団体傷害保険、同総合賠償保険に加入 家事援助事業開始
昭和57年 6・9	全国シルバー人材センター協議会設立、交流大会に参加
昭和59年 5・27 7・3	「銀鈴だより」5周年記念行事特集号発行 設立5周年記念行事実施

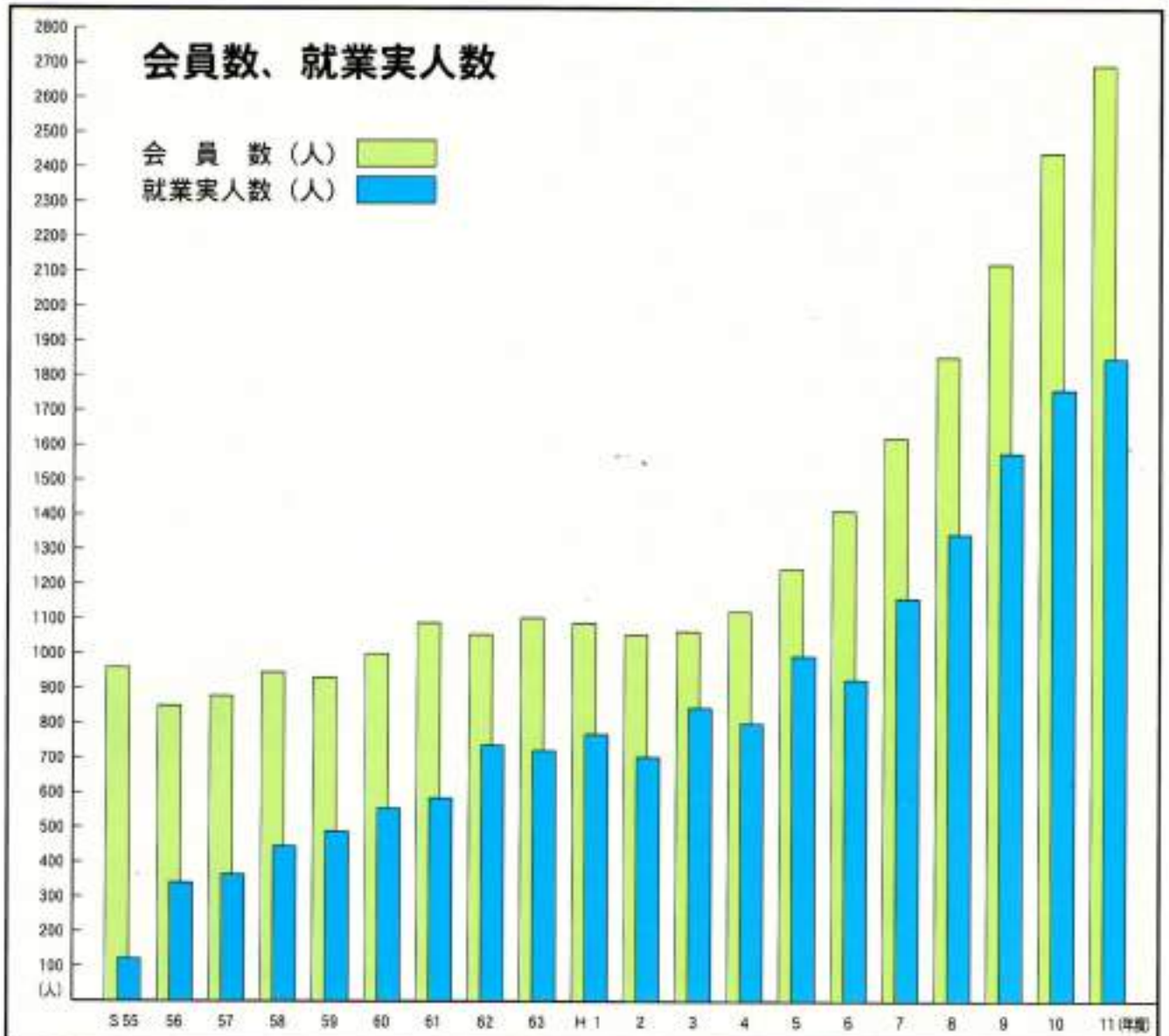
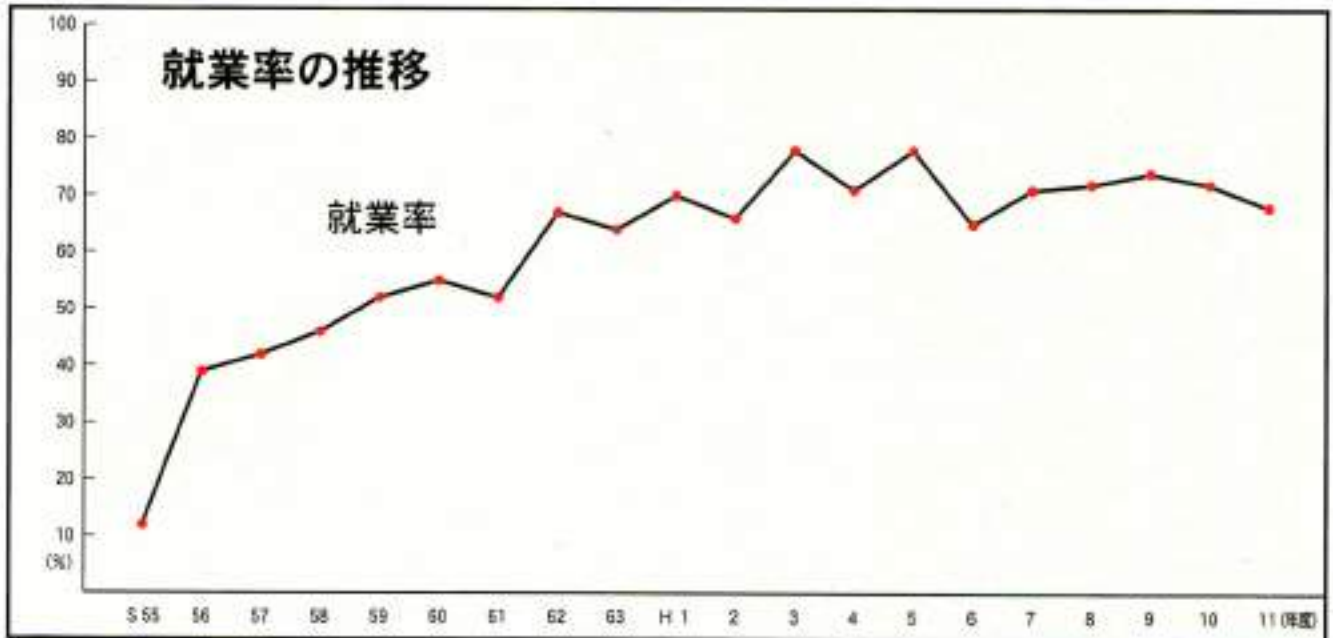
	10・31	放置自転車指導員研修に参加
昭和61年	11・9	第1回「室内レクリエーション」開催
平成元年	6・1	牛乳パック再利用事業開始
平成2年	6・23 7・2	設立10周年記念式典 社団法人 町田市シルバー人材センターに名称変更、東京都知事認可
平成4年	4・26 10・22	事務所を中町4丁目10-13に移転 (社) 全国シルバー人材センター協議会記念式典
平成5年	9・4 11・1	鶴川連絡所(鶴川さるびあ会館)開所 事務所を森野1丁目1-15(わくわくプラザ町田)に移転、業務開始
平成7年	1・11 5・16~19 6・2 6・3 6・4 6・5 7・1 7・3 7・7 8・27 9・11 9・25 9・28 10・4 10・15 10・18 11・4 11・10 11・20 11・21 12・9	シルバーカレッジ開講 会員作品展開催(わくわくプラザ町田) 厚木市SC(シルバー人材センター 以下同じ)来訪 紙すき実演(代々木公園) 紙すき実演(鶴川商店街) 座間市SC来訪 襖・障子張り教室開講(わくわくプラザ町田) 俳句教室開講(わくわくプラザ町田) ディーサービス開設(わくわくプラザ町田) 東久留米市SC来訪 パレード参加 実用書技教室開講(鶴川) 藤枝市SC来訪 定期総会 市民ホール 現在員 正会員1,498名 特別会員3名 出席者 1,160(うち選任届 740名) 横浜市SC視察 わいわい祭り(芹ヶ谷公園) 家庭介護セミナー開講(わくわくプラザ町田) 室内レクリエーション(市総合体育館) 多摩市SC来訪 座間市市民の会来訪 川越市SC視察 鶴川地区奉仕デー
平成8年	2・12 3・1 3・9 4・6~7 4・13	金森地区奉仕デー 定期総会 市民ホール 現在員 正会員 1,626名 特別会員 3名 出席者 1,149名(うち選任届 679名) 小山センターまつり さくら祭り 健康ハイキング(薬師池~野津田公園周遊)

20年間の実績

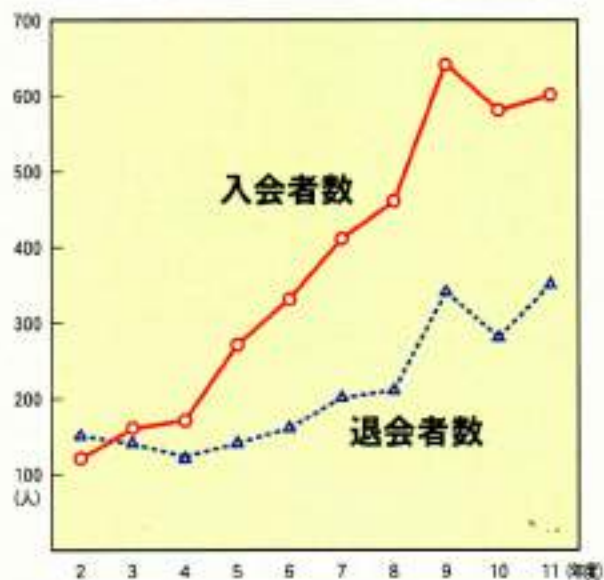
	5・25	藤枝市SC来訪
	6・20	入間市SC来訪
	8・1	シルバーカレッジ「襖」開講（わくわくプラザ町田）
	8・9	秦野市SC来訪
	8・31	シルバーカレッジ「襖」開講（鶴川）
	9・7	シルバーカレッジ「垣根作り」開講
	9・19	シルバーカレッジ「俳句教室」開講
	9・27	定期総会 市民ホール 現在会員数 正会員 1,772名 特別会員 3名 出席数 1,370名（うち選任届 889名）
	10・3	シルバーカレッジ「着付け教室」開講（鶴川）
	10・20	ワイワイまつり（芹ヶ谷公園）
	11・2	シルバーカレッジ「料理教室」開講
	11・6	須賀川市SC来訪
	11・16	室内レクリエーション（市総合体育館・300名参加）
	11・28	大津市SC来訪
	12・6～7	鶴川地区奉仕デー（24名参加）
平成9年	1・10	シルバーカレッジ「油絵教室」開講（鶴川）
	2・12	忠生1～4丁目調査打合せ（忠生市民センター）
	3・8～9	小山センターまつり
	3・13	定期総会「市民ホール」 会員数 正会員1,862名・ 特別会員3名 出席数 1,344名（うち選任届867名）
	3・25	忠生1～4丁目調査終了
	4・5～6	さくらまつり参加
	4・12	健康ハイキング
	6・27	福山市SC来訪
	8・5	シルバーカレッジ「英会話」開講（鶴川）
	8・23	森野団地盆踊り大会参加
	9・14	ワイワイまつり参加
	9・26	定期総会（市民ホール） 会員数 正会員2,064名・ 特別会員3名 出席数 1,471名（うち選任届954名）
	10・1	シルバーカレッジ「着付教室」（わくわくプラザ町田） シルバーカレッジ「小物づくり」開講（鶴川）
	10・6	シルバーカレッジ「将棋教室」開講（鶴川）
	10・18～19	消費者センターイベント参加（紙すき）
	10・24	就業フェスティバル（財団）
	10・30	全シ協15周年記念式典（中野サンプラザ）
	11・1	室内レクリエーション 約300名参加（成瀬体育館）
	11・20	水戸市SC来訪
	12・13	鶴川地区奉仕デー（25名参加）
平成10年	4・4～5	広報活動（町田さくら祭り）
	4・15	会員のつどい始まる
	6・2	シルバーカレッジ「水彩画」開講（鶴川） シルバーカレッジ「オカリナ」開講（鶴川）

	6・29	立川市SC来訪
	7・3	シルバーカレッジ「着付け」開講（鶴川）
	8・4	シルバーカレッジ「水彩画」閉講（鶴川）
	8・19	シルバーカレッジ「オカリナ」閉講（鶴川）
	8・22～23	森野団地主催の盆踊り大会参加
	9・8	シルバーカレッジ「手すき紙」開講（わくわくプラザ町田）
	9・10	シルバーカレッジ「水墨画」開講（わくわくプラザ町田）
	9・12～13	広報活動（わいわい祭り参加）
	9・15	広報活動（栄通りパレード参加）
	9・25	定期総会（市民ホール） 会員数 正会員2,373名 特別会員3名 出席数 1,551名（うち選任届971名）
	9・28	シルバーカレッジ「英会話」開講（わくわくプラザ町田）
	10・7	シルバーカレッジ「パソコン」開講（わくわくプラザ町田）
	10・17～18	暮らしをまもる市民のつどい参加
	11・7	会員と家族の室内レクリエーション（成瀬体育館）
	11・21	健康ハイキング
	12・7	施設見学40名
	12・14	東久留米SC来訪、町田地区奉仕デー シルバーカレッジ「英会話」閉講（わくわくプラザ町田）
平成11年	1・22	同好会世話人連絡会
	3・2	定期総会（市民ホール） 会員数 2,479名 特別会員4名 出席者 1,622名（うち選任届976名）
	5・2	20周年記念準備委員会発足
	7・2	大沢野SC来訪
	7・14	安全就業推進大会
	9・5	栄通りパレード参加
	9・28	定期総会（市民ホール） 会員数 2,634名 特別会員3名 出席者 1,773名（うち選任届1,160名）
	10・2	国際高齢者フェア（都庁前広場）
	10・16	室内レクリエーション（成瀬総合体育館）
	10・30	健康ハイキング（こどもの国）
	11・7	成瀬駅南口 夢舞・オカリナ 出演
	11・25	経験交流大会（財団）
	12・2	小平市SC来訪30名
	12・17	首都圏反対集会（都体育館）
平成12年	1・21	狛江市SC来訪
	2・16	鶴岡市SC来訪
	2・17	蓮田市SC来訪
	2・28	熊本市SC来訪
	3・3	定期総会（市民ホール） 会員数 2,734名 特別会員3名 出席者 1,786名（うち選任届1,216名）
	3・14	府中市SC来訪

20年間の実績



入会者数と退会者数の推移

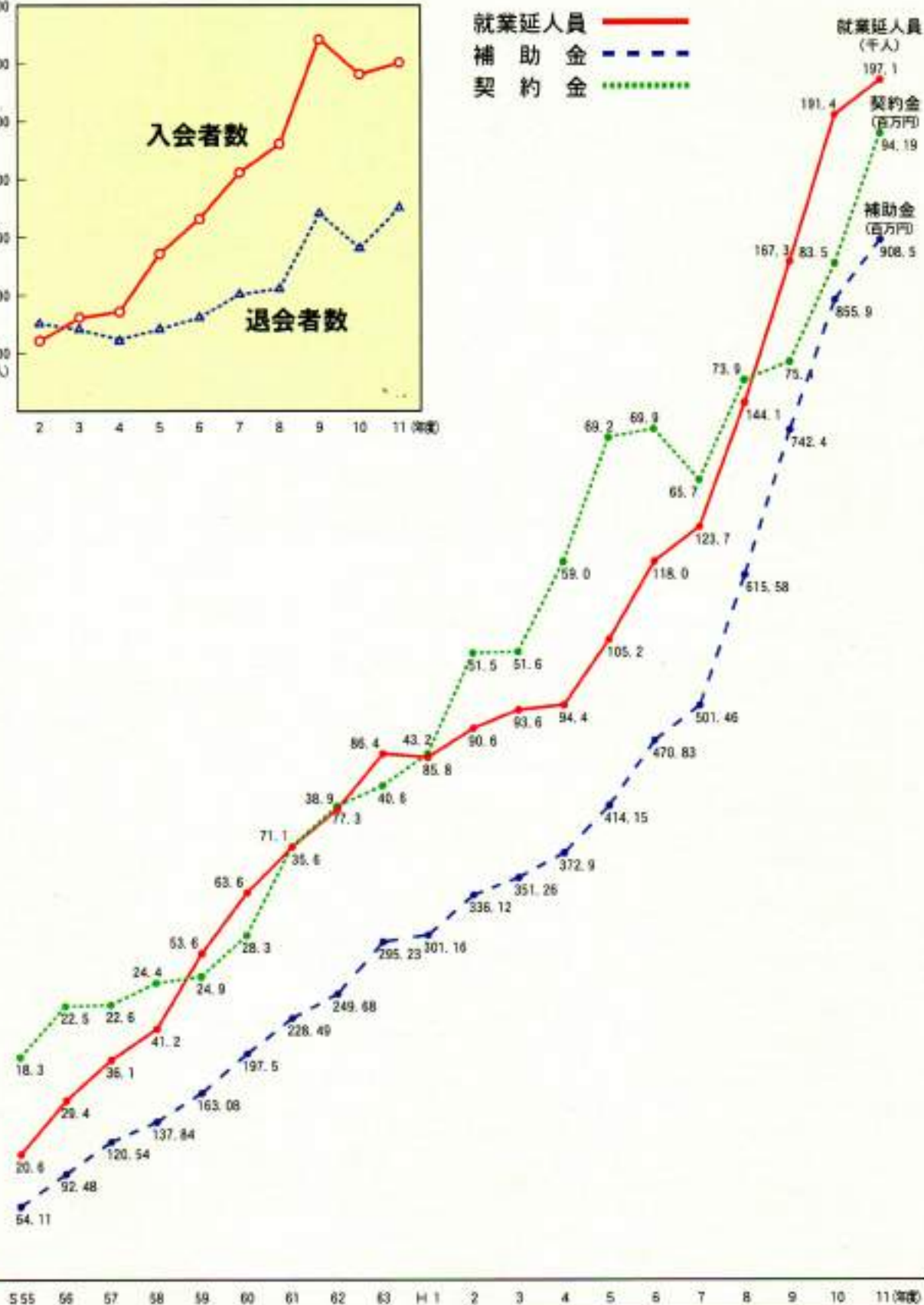


事業実績の推移

就業延人員 (Red solid line)

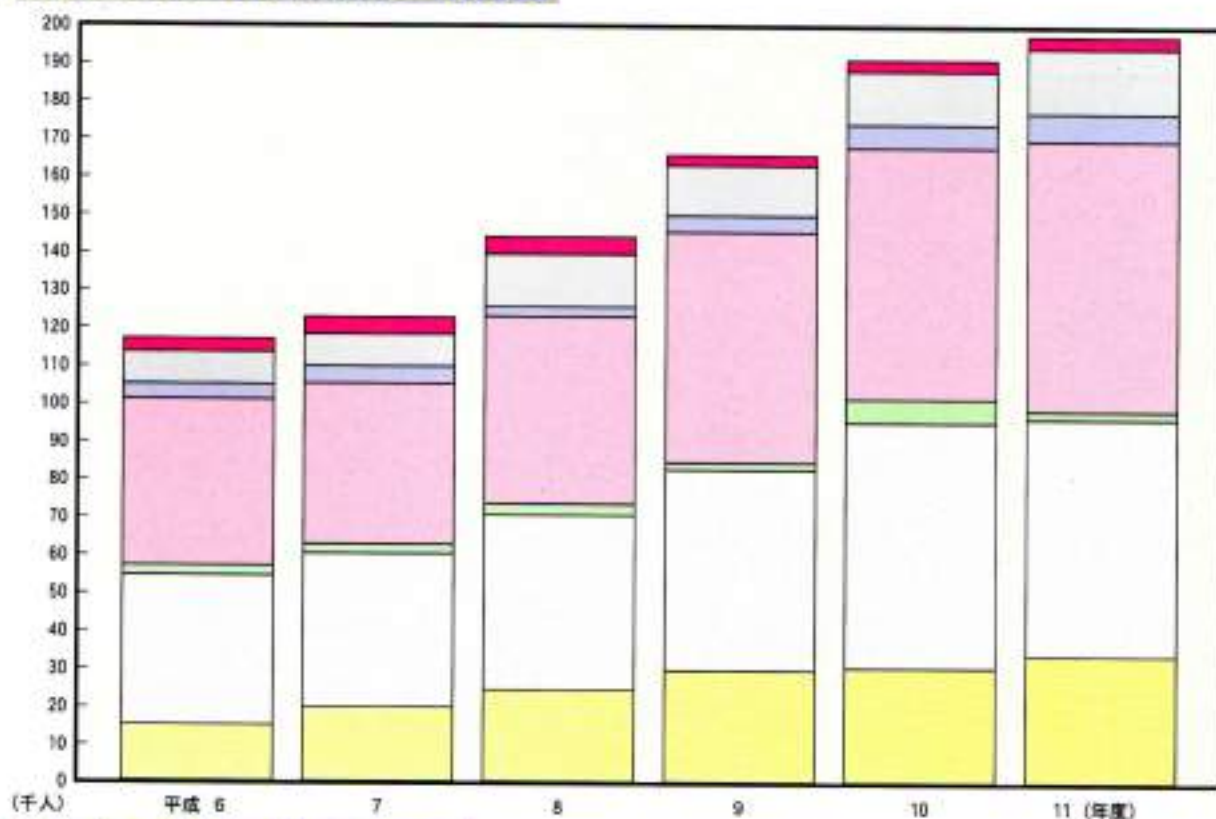
補助金 (百万円) (Dashed blue line)

契約金 (百万円) (Dotted green line)

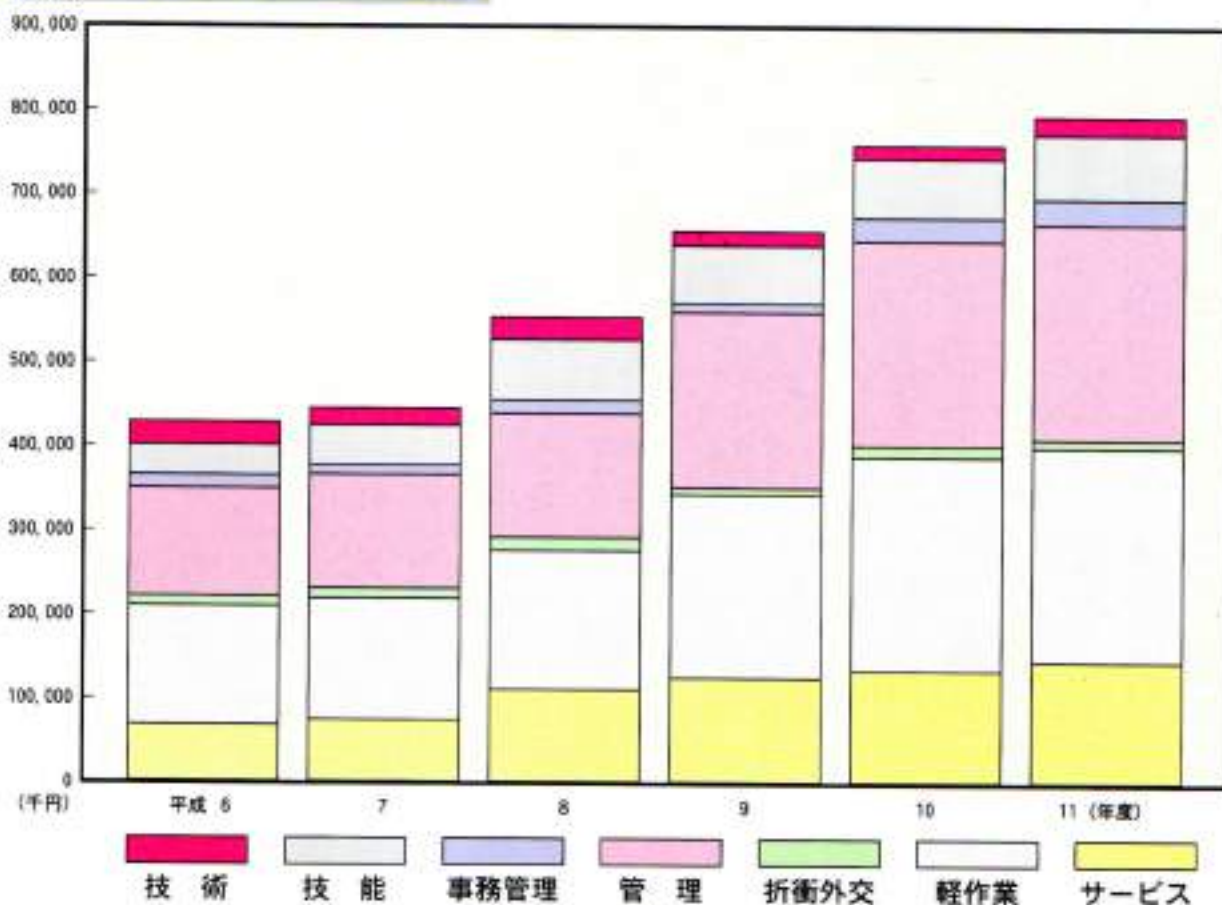


20年間の実績

就業延人員の職群別構成の推移



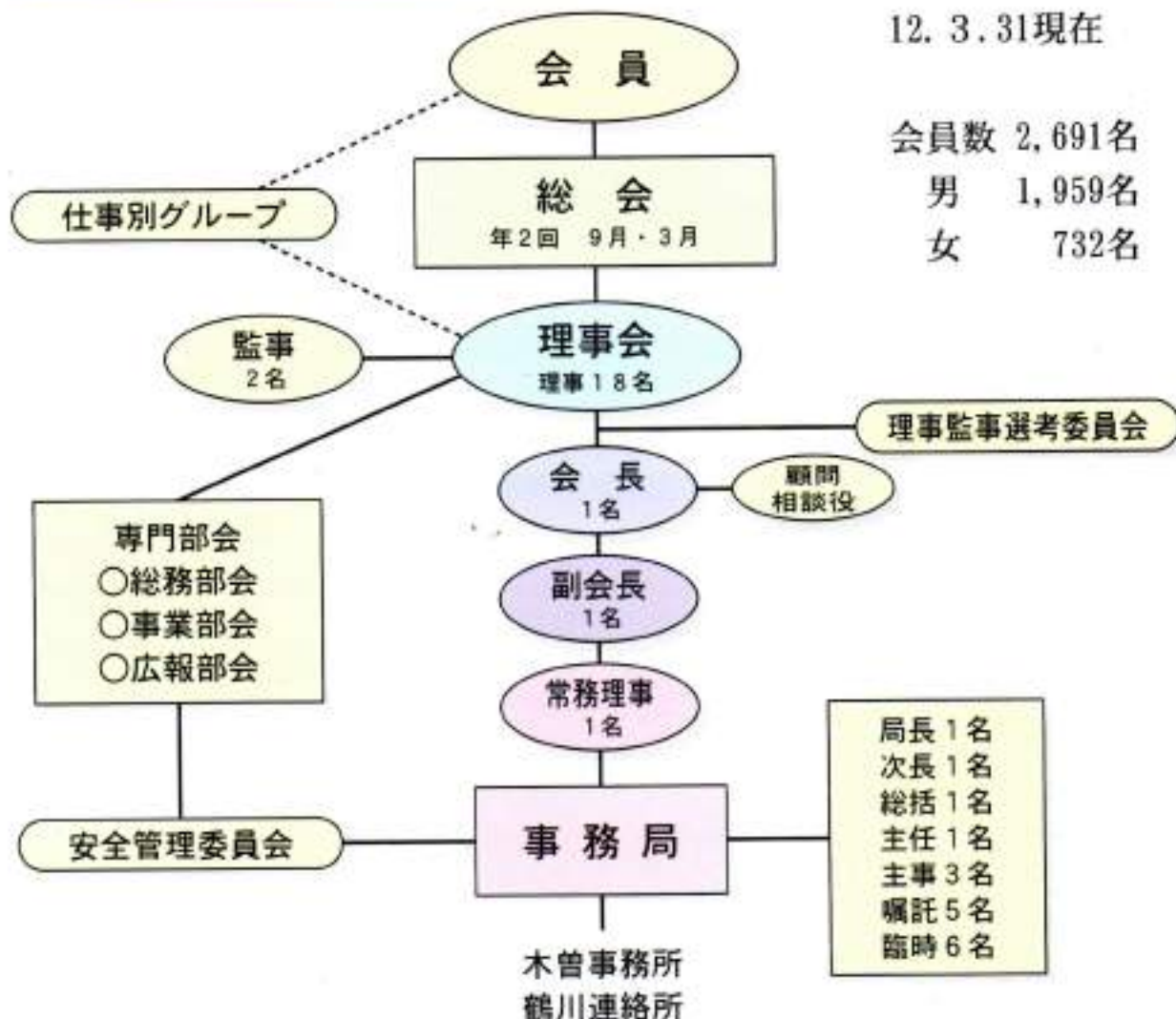
配分金の職群別構成の推移



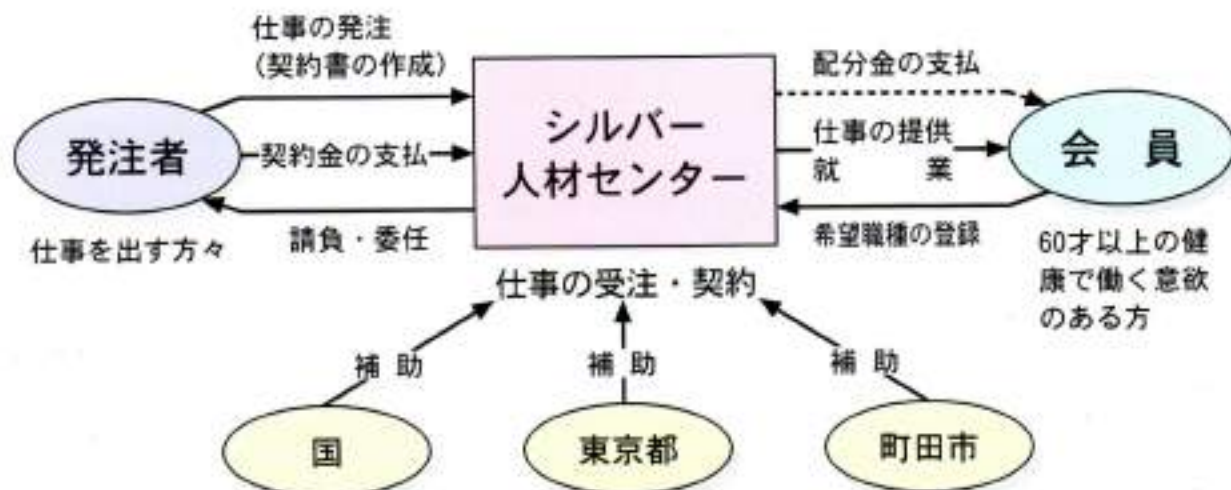
社団法人 町田市シルバー人材センター組織図

12. 3. 31現在

会員数 2,691名
男 1,959名
女 732名



就業のしくみ



役員の変遷

役員の変遷

役職	年度	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12
名誉会長		大下勝正										寺田和雄									
会長		小野寺克巳										林 清美									
副会長		五味英明	飯尾絢子				大志万むつ				江淵秀子										
常務理事		林 清美	中島元高		柳川孝二		武田太郎														
理事		飯尾絢子	大志万むつ			平岡集吉		森下孝作		栗原友四郎			大谷操男								
		岡崎芳雄		磯村チエノ		江淵秀子			仲重 満		大川繁次		間島一夫								
		小田中英太郎										浅石 巖					立野三男				
		相見重三		坂爪 昇						前孝子											
		高木 憲	鈴木典次			岡本りさ					渋谷清			甲斐知喜							
		武村研自										大用藤重					中峯良藏				
		田中由栄	鈴木 池田 真美子 三三		太田清一										野呂善勝						
		谷 節能										真角喜久子									
		服部愛子	高木勉		武田太郎		島田正直			星加一男			由井友二								
		岩内三郎	山田亀三		永井勇作		清井寿男			岡野 勲			伏木田美智子								
		山内喜久恵				小藤春生		角藤金一		平野幸雄		長谷川清									
		茂木剛男			戸田 勇					大塚邦信											
		杉山栄男			永島栄良			東 要			高柳清一郎			花岡哲夫							
		山本政吉			山崎正夫			宮下恒一			水島政一										
		五味 中島 英明 万喜		中島 飯尾絢子 万喜		吉住紀久代															
		浅沼 尚		大塚和重			飯田 朗		八木昌平		鈴木喜八郎			白井勇							
		池田敏彦		金子好雄		矢口孝明			中橋 進		金子好雄		岡部 優		布施勝俊						
監 事		斎藤キフ				近間延子				島田正道				宮下恒一							
		柳川孝二		清井寿男		柳川孝二		永島栄良			甲斐知喜			浅石 巖							

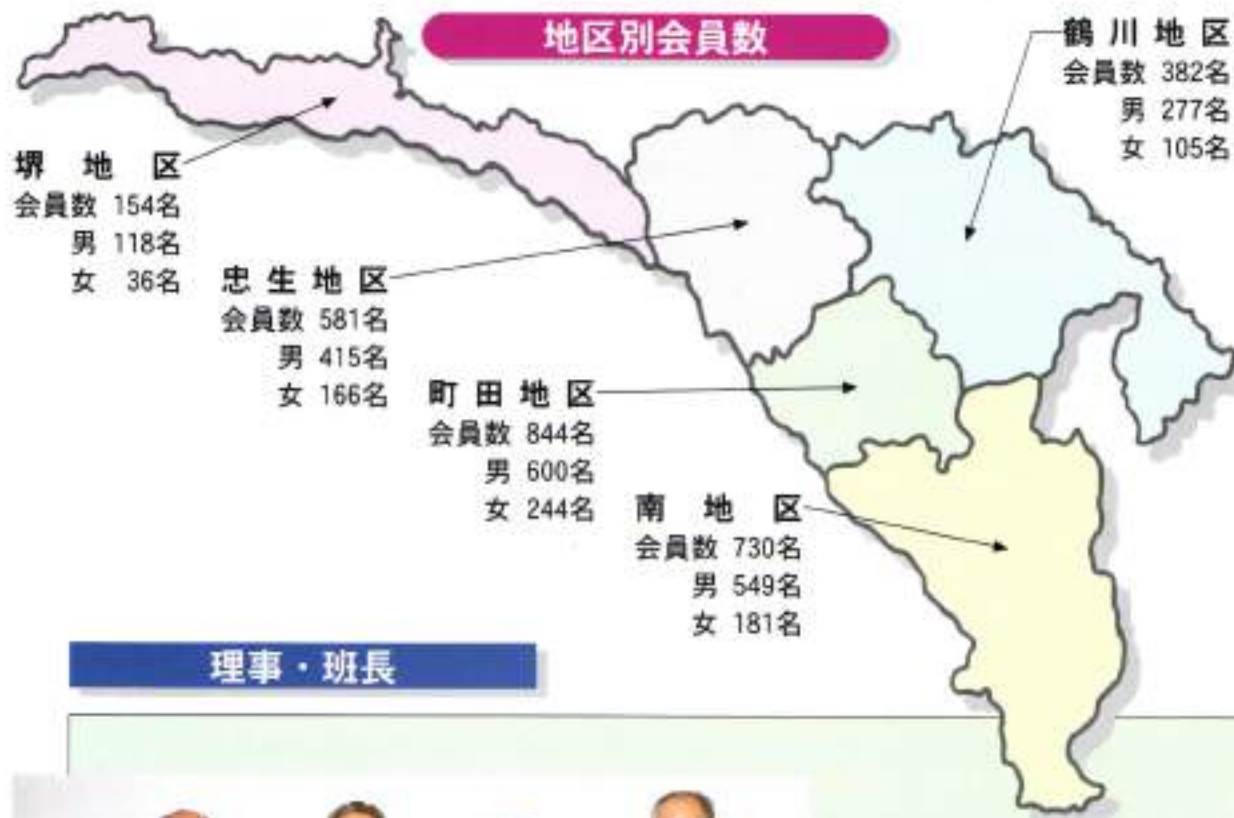
理事・監事選考委員の変遷

年度 S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12
岩内 三郎	五味 英明	武村研自					東 要			由井友二									
星野金次郎				大塚邦信				太田精一				大谷操男							
近間延子	岡崎芳雄	中嶋万喜	清井寿男	梅野正二	大谷操男	平野 秀雄	大谷 操男	真角喜久子											
広波 静	小田中英太郎				栗原友四郎				青山秀夫										
宇野正二	吉田 武				満山勝美				井上俊一郎				小林 保						
水野克巳	江沢三郎				大島初治				高瀬安良				野呂 勝	萩原 学					
横谷豊吉	山田 亀三	東 要			坂爪 昇			磯野泰夫											
飯尾絢子				大志万むつ			水島政一			大塚邦信									
荒木則男	山崎 正夫	安西泰明		大塚邦信		須田広之助		栗原敏治		桜井文七		栗原敏治							
池田敏彦	鈴木典次		山崎 正夫	江澤 秀子	倉田正道			江淵秀子											
林 清美		柳川孝二			武田太郎														

安全管理委員の推移

年度 S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12
中嶋 万喜	武田太郎					水島政一								
山崎正夫		坂爪 昇		岡本りさ		岡野 勲		吉住紀久代		長谷川清				
鈴木 典次	永島栄良	角藤金一	宮下恒一	田口幸一	近江 昇	渋谷 清	立野三男							
射越義一				平本良雄				川手秀雄				斎藤芳三		
本部 委	松野兼吉		石原雅典			磯野泰夫				田仁英幸				
山口金蔵				田畑六衛			大塚邦信			井上信行				

現役員・地区班長



理事・班長



後列左から 中村登志男・班、金子司馬・班、林文雄・班、山口泰男・班
前列左から 水島政一・理、田中富夫・班、大塚邦信・理、吉住喜久代・理、池澤利美・班

町田地区



後列左から 關昌雄・班、伏木田美智子・理、上田寿・班、田所輝正・班
前列左から 大石敏三・班、木谷英・班、長谷川清・理、川崎俊夫・班、宮崎三男・班、



南地区

後列左から 斎藤芳三・班、斎藤博・班、奥寺哲平・班、宮沢とみ子・班、清水弘・班、前孝子・班
前列左から 栗原敏治・班、平塚知子・班、大谷操男・班、尾藤覚・班、三橋光寿・班



後列左から 細野和江・班、岡部高邦・班、高橋保司・班
前列左から 中峯良蔵・班、立野三男・班、米山橋之助・班、森本勲・班

鶴川地区

後列左から 豊島敏三・班、菊地満高・班、大野康晴・班、清田均・班、杉浦博・班、小林孝・班
前列左から 磯野幸夫・班、曲井友二・班、林清美会長、花岡哲夫・班、山田武巳夫・班、梶谷晃(退会)



現役員・地区班長



忠生地区

後列左から 清水伸久・班、伊藤文雄・班
 前列左から 寛嶺和子・班、真角喜久子・理、武田太郎常務理事、青山秀夫、吉田守正・班



後列左から 若杉幸生・班、水野貞次郎・班、宮崎正康・班、若林文夫・班
 前列左から 富村克也・班、甲斐知喜・理、額島一也・理、榑崎勇・班、浜田和平・班

堺地区

後列左から 榑田年雄・班、河内幸雄・班、功刀春夫
 前列左から 榑谷和代・班、江洲美子副会長、野呂雅勝・理、岩島千代子・班



事務局職員・実行委員・あとがき

事務局職員



前列左から 花上主任、高須次長、松田局長、天野総括主任
後列左から 谷岡、金井、池野主事、和出、測本、阿波野主事
佐藤、栄主事

局長	松田 良蔵	全般・防火
次長	高須 政則	全般・傷害保険
総括主任	天野美佐子	受注・家援
主任	花上 学	受注・契約事務
主事	阿波野ゆう子	経理・文書
主事	栄 和貴	受注・統計
主事	池野 系	受注・物品
嘱託	測本 洋子	受注・統計
嘱託	佐藤 紀子	受注・会員管理
嘱託	和出 建子	受注
嘱託	谷岡美津江	受注
嘱託	金井 明子	受注・経理補助
臨時	高吉 春眉	木曾事務所
臨時	安永キミエ	木曾事務所
臨時	梅原 章子	木曾事務所

あ と が き

社団法人町田市シルバー人材センター設立20周年に当たり、記念事業として記念誌を発行することになりました。ご多忙中にもかかわらずご祝辞と励ましのお言葉を頂きました関係各位に、心からお礼を申し上げます。

また写真の提供などでご協力下さった方々には、厚くお礼を申し上げます。なお一部については紙面の都合上、割愛させて頂きました。どうぞご了承ください。

この度の設立20周年記念誌「銀齡」の編集にあたっては

- ① 当センターの特色を出す。
- ② 写真を多くとり入れ見やすくする。
- ③ できるだけ会員の努力を表現する。
- ④ 会員の皆さんの協力をお願いしてなるべく手作りにする。

これらを編集の基本として多くの会員の皆さんと共にこの記念誌を作ることが出来ました。

この記念誌が今後の基礎資料として多少でもお役に立ち21世紀に向けての着実な歩みの指標になれば幸いです。

不備な箇所、お見苦しい点は不慣れな編集者の責任であり、お許しいただきたいと存じます。

編集委員会

20周年記念行事実行委員

委員長	林 清美	
委員	江潤秀子	武田太郎
	間島一也	甲斐知喜
	水島政一	眞角嘉久子
	伏木美智子	由井友二
	鈴木 哲	大塚邦信
	立野三男	中峯良蔵
	野呂善勝	長谷川清
	花岡哲夫	吉住紀久代
	秋元 勇	松本喜美江
	奥寺哲平	須藤弓枝
	置田幸子	清水やよい
	並木カツ子	前 孝子
	大谷操男	秋山 博
	山崎郁夫	村上秀利

発行年月日 ■ 平成12年9月28日

編 集 ■ 記念誌編集委員会

発 行 ■ (社)町田市シルバー人材センター
東京都町田市森野1-1-15
電話 042-723-2147~8

印 刷 ■ 株式会社 シントー商会

町田シルバー応援歌

作曲：波多野喜美子

町田シルバー応援歌

作詞 花岡 恒夫
作曲 波多野 喜美子
編付 並木 カツ子

一 第二の人生 はつらつと

ふれあい求め こんにちわ

ドドンと行こう 両手を振って

町田シルバー 会員の

力を合わせ 今日もまた

笑顔忘れず ソレ行こう

二 暑さ寒さを 吹きとばし

生涯現役 合い言葉

ドドンと行こう 足音高く

町田シルバー 会員の

優しさいっぱい 明日もまた

希望を抱き ソレ行こう

三 長い年月 越えた先

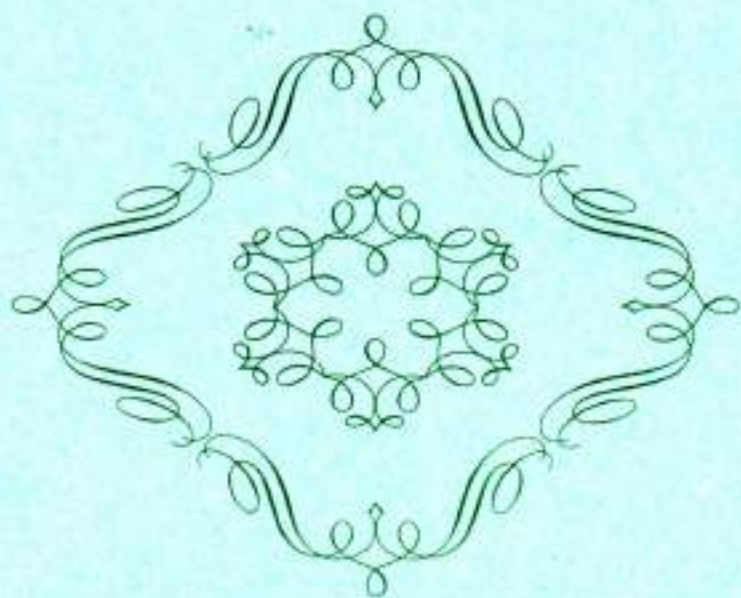
幸せ皆に 待っている

ドドンと行こう ファイトを燃やし

町田シルバー 会員の

誇りを胸に いつまでも

心いきいき ソレ行こう



この表紙は牛乳パックの再利用で会員の手漉です。